

市沢地区

きらっとあさひプラン

第3期 旭区地域福祉保健計画

平成28年度～32年度

地区別
計画

市沢地区は、区の南東に位置し、保土ヶ谷区の陣ヶ下溪谷を形づくる谷の源流域にあたります。南北に環状2号線が通り、住宅地と農地・樹林地に土地利用が分かれています。

人口、世帯数ともに5年間で増加していますが、1世帯当たりの人員数は、2.36人/戸で変わりません。若い年代が多く、高齢化の進行が遅い地区です。



■めざす地区の姿

- 町内会・子ども会・老人会の加入者が増え、日常的な見守り活動の体制が整い、顔の見える関係から声を掛け合う関係へと変わっている。
- 町内行事の「見える化」を行い、情報が地域住民に届いている。
- 地域の抱える福祉課題の「見える化」を行い、地域住民の理解が進んでいる。

■目標A

運動する区計画の柱 3 地域の取組で元気がアツク

地域交流の活性化

■具体的な取組

- 町内会・子ども会・老人会などが連携し、交流の場として神田公園を活用する。
- 学校との連携による、こどもたちも参加できるイベントの開催と工夫。
- 地区センターと地域の双方のためになるような取組をすすめる。



子ども会いちご狩り



三世代ラジオ体操



運動会

■目標B

運動する区計画の柱 1 地域の福祉力アツク

情報発信の「見える化」で地域の理解を深める

■具体的な取組

- 町内会・子ども会・老人会の活動に活動内容の見える化によるPRで、理解し参加してもらう。
- 掲示板の活用など、情報の周知方法を工夫する。
- 市沢地区連合町内会と市沢地区社会福祉協議会合同の「市沢地区だより」を発行し、町内会未加入者にも配布する。



獅子舞



消火訓練



高齢者を祝う集い

■目標C

災害時だけでなく、日常時の要援護者見守り体制を整える

■具体的な取組

- 災害時要援護者支援カードの見直しにより、防災マップ（要支援者・支援者情報の落とし込み）を作成し、日常時の見守りにつなげる。
- 町内会未加入者も含めた災害時の要援護者を支援する体制について検討する。
（区との協定による要援護者名簿の受領）
- 地域でちょこっと応援団（仮称）を立ち上げ、日常のたすけあい体制をつくる。



防災訓練



要援護者支援カードの保管



一時避難場所設定

■目標D

地域活動者の担い手づくり

■具体的な取組

- 市沢まつりをきっかけに中高生のボランティアや町内会未加入者の地域活動への参加を促す。
- 特技や経験を発揮する場をつくるため、土曜塾のようなものを復活させる。
- 各団体の情報共有の場を設け、団体相互の連携により、取組状況を地区の中で共有して地域活動しやすい環境をつくる。



市沢フェスタ餅つき



盆踊り

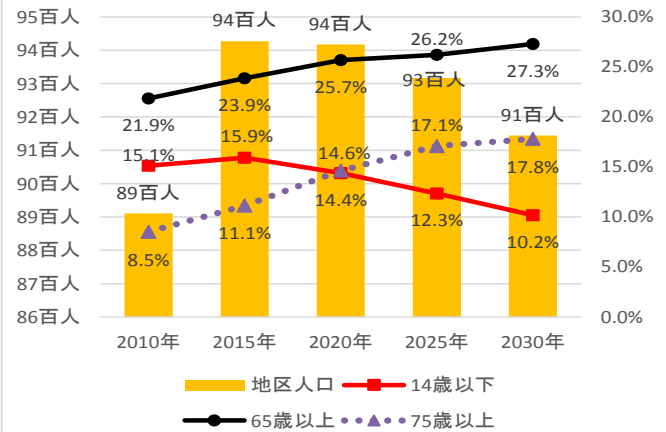
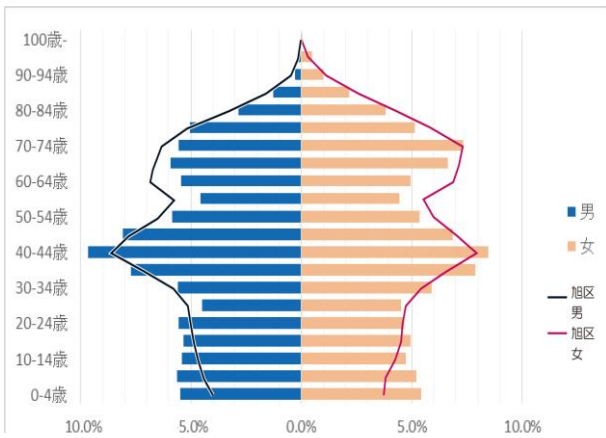


グランドゴルフ

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）に比べ 55 歳以上の層の比率が低く、35 歳から 49 歳の層の比率が高くなっています。また、区平均に比べ 14 歳以下の層の比率が高くなっています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 500 人増加しています。高齢化率は 2% 増加したが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で約 230 戸以上増加しているが、世帯人員はほぼ変化せず、2015 年で 2.36 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 9400 人、2025 年で約 9300 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 25.7%、2025 年で約 26.2%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

- 安全安心のまちづくり分科会、顔の見える関係づくり分科会、子育て支援分科会の3分科会を立ち上げ、地域の課題を分科会毎に話し合い、取り組んだ。
- 災害時要援護者支援カードを作成し、組長や班長など支援者も決定し保管体制も整えた。
- 地区内に（全 47 箇所）一時避難場所の設置。防災訓練で、参加住民が一時避難場所から防災拠点へ避難する訓練を行っている。
- 子育て支援に携わる団体どうしが共催でイベントを開催するなど、協力関係を築くことができた。
- 災害時ボランティア育成、組織化が進まなかった要因として、第2期計画当時は若い世代を集めて教育していく構想があったが、具体的な活動のイメージが固まらなかったこともあり、他の取組が優先となっていた。

■地区の福祉課題

【所属団体の加入者減少・活動者の不足】

- ・町内会未加入者が多数のため、災害時に支援を必要としている方を把握できていない。
- ・災害時の見守り体制については検討しているが、日常時の見守り体制が整っていない。
- ・子育て世代は共働きが多く、地域とのかかわりが難しくなっている（子ども会未加入者も多い）。

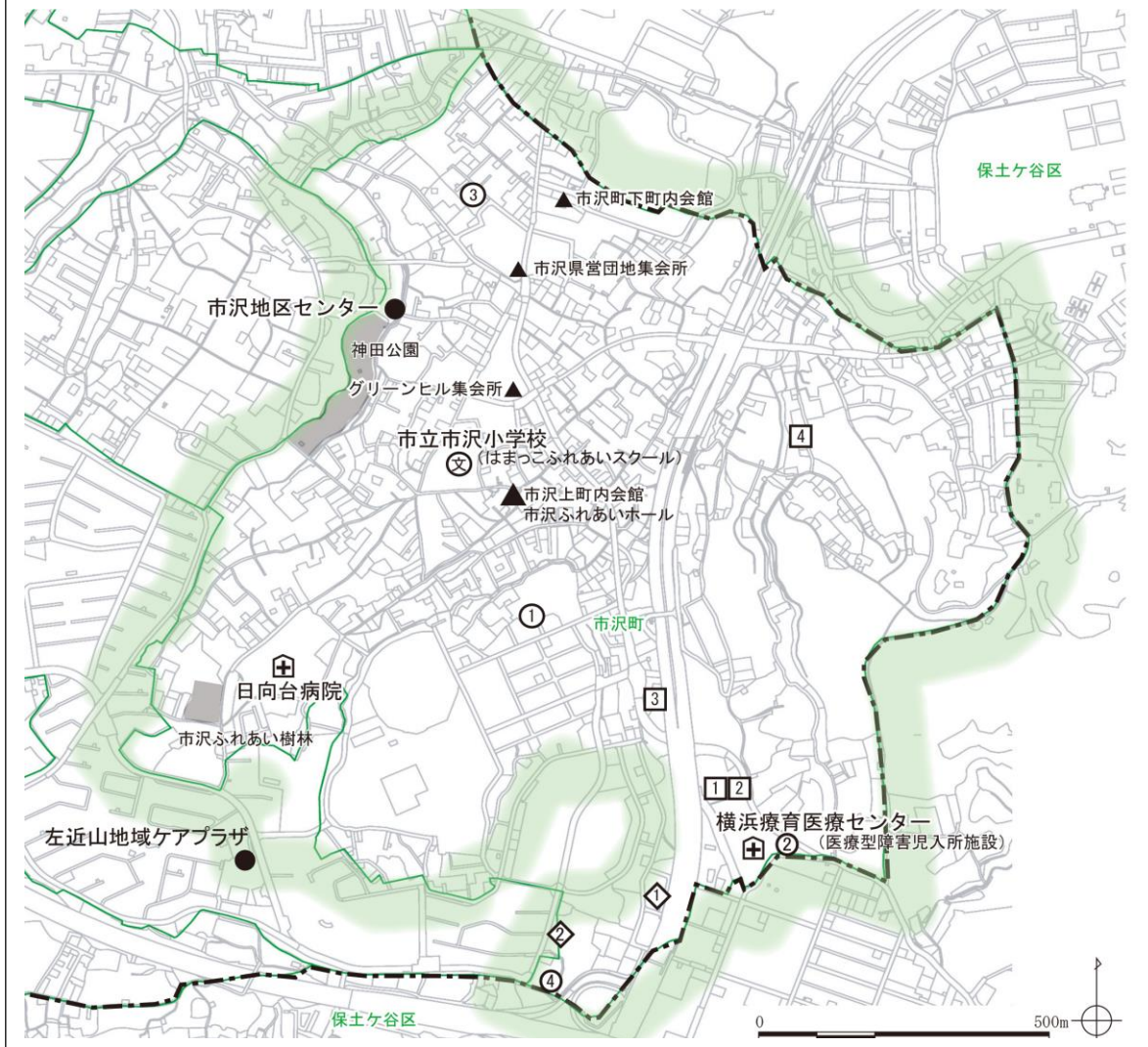
【情報発信】

- ・子育て世代が地域のことを良く知らない。
- ・イベントを開催しても、毎回参加者や担い手の顔ぶれがいつも同じ。

【子育て世帯の支援】

- ・留守家庭児童が増えている。
(共働き世帯が多いので、親も精一杯の様子。子どもだけでなく親の支援も必要)

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

- 子ども**
- 認可保育所
 - ① マヤ保育園
 - 小規模保育事業
 - ② 保育室ひかり
 - 放課後児童クラブ
 - ③ 市沢学童クラブ
 - 幼稚園
 - ④ 左近山幼稚園

- 障害者**
- 障害者施設
 - ① 第一空とぶくじら社
 - ② 第二空とぶくじら社
 - ③ 第三空とぶくじら社
 - 地域活動支援センター(地域作業所)
 - ④ もみの木第1作業所

- 高齢者**
- 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
 - ① 華寿園
 - 介護老人保健施設
 - ② ハートケア左近山